

2004年8月期第1四半期の決算を発表

2004年8月期第1四半期 決算(単体)

(単位:億円)

	04/8期			03/8期
	通期 計画	上期 計画 (前年比)	第1四半期 実績 (前年比)	第1四半期 実績
売上高 (売上比)	3,300 100.0%	1,765 (+9.0%) 100.0%	919 (+3.3%) 100.0%	889 100.0%
売上総利益 (売上比)	1,524 46.2%	818 (+16.9%) 46.3% (+3.1p)	456 (+13.4%) 49.7% (+4.4p)	402 45.3%
販管費 (売上比)	928 28.1%	461 (+5.1%) 26.1% (-1.0p)	235 (+4.0%) 25.7% (+0.2p)	226 25.5%
営業利益 (売上比)	596 18.1%	357 (+36.7%) 20.2% (+4.1p)	220 (+25.5%) 24.0% (+4.2p)	175 19.8%
経常利益 (売上比)	600 18.2%	359 (+36.2%) 20.3% (+4.0p)	221 (+24.3%) 24.1% (+4.1p)	177 20.0%
当期利益 (売上比)	336 10.2%	201 (+78.0%) 11.4% (+4.4p)	125 (+23.3%) 13.7% (+2.3p)	101 11.4%

03/8期第1四半期実績(および04/8期第1四半期前年比)は社内管理用の数値を使用しています。

【サマリー】増収増益を記録。経常利益はほぼ計画通りの着地。

2004年8月期第1四半期の単体業績は、売上高は前年同期比3.3%増の919億円、営業利益は同25.5%増の220億円、経常利益は同24.3%増の221億円となりました(いずれも2003年8月期第1四半期実績は社内管理用数値を使用。以下、同じ)。

また、計画との比較では、売上高が天候不順の影響などから計画をやや下回る結果となりましたが、売上高総利益率が計画水準をやや上回り、販管費がほぼ計画通りの着地となったことから、営業利益・経常利益については、ほぼ期初計画並を記録することができました。

【単体業績結果】

売上高は前年同期比103.3%の919億円と、増収を記録することができました。まず、出退店ですが、第1四半期は、出店38店舗、閉店15店舗、純増23店舗となり、その結果、2003年11月末時点での直営店店舗数は604店舗となりました。さらに、12月に2店舗の出店とF C店舗の直営店化(3店舗)を実施し、1店を閉店した結果、12月末時点での直営店店舗数は608店舗となりました。上期の出退店については、期初計画を達成できる見込みです。

また、既存店売上高は、前年比6.1%となりました。まず、客数ですが、天候不順の影響が大きく、既存店前年比5.7%と前年水準を下回りました。9月は猛暑の影響で9.1%、10月は+3.1%と増加に転じましたが、11月は暖冬の影響から11.0%と再び前年水準を下回りました。ただ、第2四半期に入り、12月には+12.1%と再び増加となるなど月によって大きく上下しています。一方、客単価は前年比0.4%とほぼ前年並みを維持できるまで回復してきています。

なお、月別に商売を振り返ると、まず、9月はボトムスキャンペーンを実施、ウィメンズのストレッチブーツカットパンツなど好調に売れました。10月はニットキャンペーンを行い、9月中旬に新

しく発売したカシミアセーターをはじめ、各種ニット商品の売れ行きが好調でした。11月はフリースキャンペーンを実施、フリースリバーシブルジャケットやマイクロフリースは好評でしたが、例年より気温の高い日が続いたことからコート等のアウター商品の販売は伸び悩みました。

次に、売上高総利益率は49.7%と、計画をやや上回る結果となりました。第1四半期は、秋冬シーズンの前半にあたるため、売上高総利益率が高くなり、逆に、第2四半期は、冬物処分など値下げ販売の比率が高くなることから、売上高総利益率は低下する傾向にあります。

このほか、販管費が計画通りとなったことから、営業利益については期初計画並の220億円となりました。

【連結業績結果】

連結業績は、売上高は928億円、営業利益は216億円、経常利益は217億円となりました。子会社別にみると、まず、英国事業は、店舗や本部の縮小などリストラによるコスト削減により6千万円の経常黒字となりました。新会社体制へ以降してまだ数ヶ月しか経過しておらず、しかも、この四半期業績は収益性の高い9月から11月の営業結果であり、今後、通期での黒字化を目指して経営努力を続けていきます。中国事業は、8千万円の経常赤字となりました。7月から9月という夏物処分期ということもあり厳しい結果となりましたが、第2四半期に入り改善のきざしも出始めており、来期黒字化を目指して収益改善努力を続けています。食品事業は2億5千万円の経常赤字となりました。黒字化に向け一層の努力が必要であると認識しております。

【業績見通し】 期初予想から修正はありません。

2004年8月期上期・通期とも、連結および単体業績予想に修正はありません。単体通期業績は、売上高3,300億円（前年同期比9.4%増）、経常利益は600億円（同27.7%増）そして、当期利益は特別損失計上に伴い大きく落ち込んだ前期を78%うわまわる336億円を見込んでいます。また、連結ベースでの業績予想も修正はなく、売上高は3,352億円（前年同期比8.2%増）、経常利益は593億円（同42.7%増）、当期利益は329億円（同57.3%増）を見込んでいます。なお、今回の連結業績予想には、2003年9月に発表した米国セオリーの経営権取得などの影響を反映させておりませんが、業績への影響が確定次第すみやかにお知らせする予定です。

（注）IR情報（<http://www.fastretailing.co.jp/ir/index.html>）に決算データなどを開示しております。詳細についてはこちらをご確認ください。